

# 令和元年度神戸市ソーシャルビジネス推進委員会

- 日 時：令和元年12月5日(木) 10時～12時
- 場 所：神戸市役所1号館17階 南会議室
- 委 員：加藤 恵正（兵庫県立大学減災復興政策研究科 教授）  
中塚 博和（日本政策金融公庫神戸創業支援センター 所長）  
内橋 秀明（兵庫県中小企業家同友会 事務局長）  
小嶋 新（特定非営利活動法人しゃらく 執行役員）  
飛田 敦子（特定非営利活動法人コミュニティ・サポートセンター神戸 理事）  
黒子 真寸美（神戸市産業振興財団 創業・新事業支援部長）  
石原 淳（生活協同組合コープこうべ 執行役員）

■神戸市：重真理子、魚山純子、堀翔一郎、森保奈央

■内 容：

## 1. 開会

- 事務局より新委員の紹介を行う（小嶋委員）。
- 事務局より加藤委員に対して委員長の名指しを行い、他の委員の承認を得る。
- 委員長ご挨拶

## 2. 委員間の情報及び問題意識の共有

## 3. 神戸市からの報告

- (1) KOBE ソーシャルビジネスマーク認証（H30 年度、R1 年度）
- (2) 神戸市ソーシャルビジネス推進助成（R1 年度）
- (3) ソーシャルビジネスセミナー
  - ・ソーシャルビジネスセミナーの実施状況について
  - ・大学等への出張セミナーの実施状況について
- (4) ソーシャルビジネスの認知度向上に向けた広報
  - ・啓発パンフレットの作成について
  - ・啓発動画の作成について
- (5) 神戸ソーシャルブリッジ事業（H30 年度、R1 年度）

## 4. 意見交換

- (1) 来年度以降におけるソーシャルビジネス推進事業の方向性について

### 【委員発言】

準備・創業期について、3段階に分けられると考える。ビジネスプランの構築、テスト運用、改善の3段階。現行、ビジネスモデルとして明確でないと受けられない助成金が多い

ので、ビジネスプランの構築等の初期段階に使える支援があると良い。

**【委員発言】**

ソーシャルビジネスの推進にあたっては、準備・創業期における支援ニーズへの一層の対応が必要と感じている。創業したが事業を軌道に乗せられないなど、事業の継続性に課題を抱える事業者や団体に対する支援メニューの拡充が期待される。

**【委員発言】**

神戸市として資金面での支援を実施していくことも重要であるが、市民に対する認知度向上にも取り組んでいく必要があると思う。また、ソーシャルビジネスは、時代とともに変化するもので、定義が難しい領域でもある。神戸市としてどのような方向性で取り組んでいきたいのか検討が必要。

**(2) 来年度におけるソーシャルビジネスマーク認証制度について**

**【委員発言】**

申請者がマーク認証のメリットを感じられる仕組みがあればなお良い。また、ソーシャルビジネスマークの認知向上にも取り組む必要があると思う。

**【委員発言】**

助成やマークを得ることで、団体がどのように発展したのかなどの報告が必要だと思う。

**(3) 来年度以降におけるコミュニティビジネスを担う NPO の裾野拡大と支援策について**

**5. 閉会**

- ・本日の内容のふりかえり
- ・その他